

Title	ノーベル賞と日本：関係者へのインタビューを通じて (基礎的研究の社会的意味(1), 一般講演, 第22回年次学 術大会)
Author(s)	赤池, 伸一
Citation	年次学術大会講演要旨集, 22: 863-866
Issue Date	2007-10-27
Type	Conference Paper
Text version	publ isher
URL	http://hdl.handle.net/10119/7413
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載す るものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般講演要旨

ノーベル賞と日本 —関係者へのインタビューを通じて—

赤池伸一（文科省（前在スウェーデン日本大使館一等書記官））

1. 序

ノーベル賞は、ダイナマイトの発明者であるアルフレッドノーベルの遺言に基づき1901年に創設されて賞であり、自然科学分野において世界で最も権威のある賞である。その選考・授賞プロセスは、如何なる政府、団体からの独立を旨としている。ノーベル賞は、授賞式等の運営、資金管理等を行うノーベル財団、選考・授賞を行う授賞機関並びにノーベル賞の普及啓蒙等を行うグループ法人等が相互に連携し合って運営されている。

また、我が国は科学技術基本計画において「50年で30人」という目標を記述したことから、国内外において賛否様々な議論を引き起こしたところである。

本発表では、ノーベル賞の運営システムについて概観するとともに、ノーベル賞の選考関係者等へのインタビューを通じて、日本との関係を含めたノーベル賞の理念について明らかにしたい。

2. ノーベル賞の仕組み

(1) ノーベル賞の構成

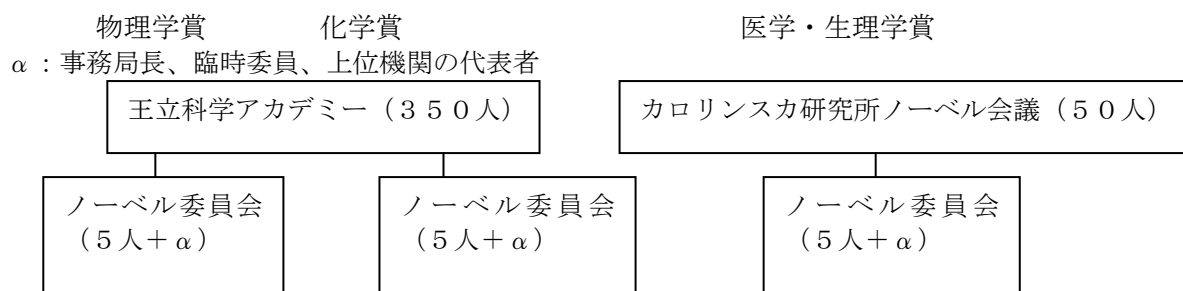
ダイナマイトの発明者であるアルフレッド・ノーベルの遺言に基づき1901年に創設された賞。当初は、物理学賞、化学賞、医学生理学賞、文学賞、平和賞から構成。なお、1969年より同様のプロセスにより選考される経済学賞が追加された（正式には「アルフレッド・ノーベル記念スウェーデン中央銀行賞」であり、ノーベル賞ではない）。

(2) ノーベル賞の理念

全てはノーベル賞の遺言から

- ・ （遺産の）利子は、前年に、人類のために最大の貢献をもたらした人々に賞金として毎年分配される。
- ・ 物理学：最も重要な発見または発明をした者
- ・ 化学：最も重要な発見又は改良を成し遂げた者
- ・ 医学生理学：最も重要な発見を成し遂げた者
- ・ 文学：理想主義的傾向にあつて最も優れた作品を創作した者
- ・ 平和：国家間の友好、常備軍の廃止又は削減、平和会議の開催や促進のために最上、最善の活動をした者
- ・ 賞を受ける者は、国籍を考慮せず、スカンジナビア人であるか否かにかかわらず、最もその賞にふさわしい人に。

(3) 授賞機関



＊所属機関からは完全に独立。選考のための経費はノーベル財団から支給され、委員は無報酬。

(3) 選考過程

医学・生理学賞の場合。物理学賞・化学賞もほぼ同様。

推薦状の発出（数千通（前年9月））

→推薦状の回収（数百通（1月末締め切り））

→ノーベル委員会による調査（数百から数人（組）に絞り込み）

→ノーベル会議による投票（1組（3名以内）を選出）

→受賞者の決定（10月初旬～中旬）

(4) 授賞式

- ・ 毎年、12月10日（ノーベルの命日）が授賞式。前後1週間はノーベル・ウィークと呼ばれ、各種行事が開催される。
- ・ 受賞者枠（10名～20名程度。受賞者夫妻以外は原則として旅費・滞在費は自己負担。）
- ・ 招待者は、授賞機関等からの推薦をもとに財団が調整してきめる。（グループ法人からの推薦枠などがある。）
- ・ 晩餐会は、夜中までのダンスパーティ。

(5) グループ法人

ノーベル財団は、財産の管理、授賞式の運営等を行い、選考には関与しない。ノーベル財団は、普及・広報事業のために、以下の関係法人を設置（遺言によりノーベル財団自らはできないため）。

ノーベル・ウェブ社：ウェブ・サイトの運営。教材ソフトの開発など

ノーベル・メディア社：映像・知的所有権の管理

ノーベル博物館：ノーベル博物館の運営

ノーベル平和センターを設立：平和賞の普及事業

3. 関係者へのインタビュー

(1) インタビュー対象者

- ・ ノーベル財団専務理事
- ・ ノーベルウェブ社社長（元医学生理学賞事務局長）
- ・ ノーベル博物館長
- ・ 物理学、化学、医学生理学各賞ノーベル委員会事務局長

註）事務局長は各授賞機関より高名な研究者が任命され、10年以上の長期にわたり務める場合が多い。ノーベル賞の選考の実務を担当する。

(2) 選考・授賞プロセス

ポイント

- 分野ではなく、人を先に選ぶ。
- 各賞間で公式・非公式に連絡をとり重複授賞を避ける。
- 完全なる秘密（記録を残すが、50年後に公開）。
- 「最初であること」が重要。

- ・ ノーベル賞は、まず、世界中の研究者に推薦依頼を出すことから始まる。依頼状は数千だが、戻ってくるのは数百程度。ここで推薦されていなければ、候補者にはなれない。（各賞事務局長より多数）
- ・ 各推薦書は1ページ程度であるが、興味を誘うものについてはノーベル委員会で追加調査が行われる。新しい成果であっても、5～6年で消えるものもあり、慎重に精査される。このような追加調査がされるのは5～15位である。（元医学生理学賞事務局長）
- ・ 同じ人を多数の推薦者が推薦する場合は注意してみしており、組織的な動きは排除している。（元医学生理学賞事務局長）
- ・ （分野に着目するのか人に着目するのかという問いに対し、）「新規性」、「科学界への影響」等の観点から人に着目して選ぶ。予め分野を特定してということではない。（各賞事務局長より多数）

・前年度からの候補者リストは引き継がれ、継続性に配慮している。事務局長が10年以上在任するのも、継続性への配慮がある。(元医学生理学賞事務局長)

ノーベル賞の選考過程(推薦・調査)

・調査はProtocol(簡単な書面審査)、Initial(概要調査)及びLarge(詳細調査)からなる。書面審査は1ページ程度のものであり、徐々に絞り込んでいく。(医学生理学賞事務局長)

・ノーベル委員会の調査は、18人(本委員5、事務局長1、臨時委員(任期1年)10、ノーベル会議議長1、同副議長2)。臨時委員は推薦状の回答状況を見つつ適切な分野の者を選定する。(医学生理学賞事務局長)

・ノーベル会議はカロリンスカ出身でなければならないが、ノーベル委員会はそのような制限はない。(医学生理学賞事務局長)

・選考は如何なる主体からも独立。カロリンスカ研究所の経営からも独立している。(医学生理学賞事務局長)

・選定のための経費は、ノーベル財団から支給されるが、委員手当は無く無報酬。(医学生理学賞事務局長)

・物理学賞は極めて「スペシフィックな成果」に与えられる傾向がある。スペシフィックとは、プラスとマイナスの符号の違いにより、全く違う結論になるが、そのような成果ということ。(物理学賞事務局長)

・物理学賞は「最初であること」がとても重要。委員は最初が誰かを突き止めるのに精力を使っている。(物理学賞事務局長)

・選考の秘密が漏れたという経験はない。漏らした研究者は学界から永久に排除される。(物理学賞事務局長)

・物理学賞はインパクトが重要(物理学賞事務局長)

・化学賞では、「ドアを開く」研究が重要。ノーベル賞は人に授与するものだが、その分野の発展と相互に関係がある。ある科学的な発見が本当に最初なのかを見逃す訳にはいかない。本当にパイオニアかを精査する。(田中氏の授賞に言及し、)正にそれがノーベル委員会の仕事。(化学賞事務局長)

・ノーベル賞は「最高の発見」に与えられるべきもの。(医学生理学賞事務局長)

・選考プロセスが秘密(50年後に公開)は、選考に関わる人が友人や同僚の影響を受けずに、真実の意見を言うようにするためのものである。(医学生理学賞事務局長)

・最近は学際的な研究が増えており、物理学賞、化学賞、生物学賞の事務局長の間で年数回は連絡をとりあう。(各賞事務局長)

・いかなる政府、団体からも選考は独立している。また、グループ法人は選考には一切関与しない。(ノーベル財団専務理事)

(3) 日本との関係

ポイント

○ 第2期科学技術基本計画の「50年で30人」に対し、ノーベル財団・授賞機関等から懸念が示された。主な理由は、「ノーベル賞に対する不当なロビー活動を強化する」ととられたため。しかしながら、日本大使館、JSPS、出張者等関係者からの説明等により、次第に誤解が解け、最近では、2005年の授賞式におけるノーベル財団会長のスピーチに見られるように、関係者に「日本における科学への投資への梃子」と理解されるようになってきた。

○ 基礎研究への投資が重要、スウェーデンは日本との関係を強化すべきとの意見が多い。

・ノーベル賞50年で30人」という目標については、誤解を招くおそれがある。日本政府がロビー活動をしているとは思わないが、ふさわしくないのではないかと。日本国内で予算獲得のための目標としては理解できるが、財団としては苦言を呈さねばならない。(ノーベル財団専務理事)

・「ノーベル賞50年で30人」という目標については、日本は研究の面で優れた国であり、ノーベル賞に関心を持ってもらうのは良いことだ。しかし、誤解を招くような記述は賢くないのではないかと。(物理学賞事務局長)

・ノーベル賞はいかなる政府からも影響を受けない。昨年のノーベル財団会長のスピーチでもあったが、受賞者数の目標ををテコに科学への投資を増やすのは良いと思う。スウェーデンではまだまだ足りない。

・基礎研究を忘れないで欲しい。これを支える学校制度も重要。(化学賞事務局長)

- とにかく基礎研究への投資が重要。(医学生理学賞事務局長)
- 客員研究員など、日本の博物館等とのスタッフの交流を拡充したい。また、日本企業からの寄付に期待したい。(ノーベル博物館長)

(註) 2005年ノーベル賞授賞式におけるノーベル財団ストック理事長のスピーチ(抜粋)

ノーベルが望んだ前途有望な若者への物質的、倫理的支援は、間接的な形で起こっている。賞は、公的な財政担当者や私的な投資家が科学や文化に様々な方法で貢献することを促進する効果を果たしている。資源を結集するため、特に米国の大学は、多くのノーベル賞受賞者を生徒、教師、スポンサーを引きつける論拠として利用している。EUが研究分野で遅れをとっているとの分析では、ノーベル賞受賞者の減少がその例として取り上げられ、政策決定者に問題点を十分具体的に認識させている。日本は、最近の研究費、特に基礎研究を増額させる際に、今後50年間で受賞者を30人という目標を掲げた。ノーベル財団自身も、ノーベルの精神に沿って、若者の関心を起こすため、実際の、または仮想の博物館運営を行っている。6月には、ノーベル平和センターがオスロ市庁舎の隣に設立された。ストックホルムのノーベル博物館は、巡回展を東京、ソウル、クアラルンプール、ニューヨーク、サンフランシスコと多くの場所で成功裡に開催してきた。



2004年ノーベル化学賞の発表(於：王立科学アカデミー)